

令和2年(2020年)5月16日(土)

ペン剣基金助成研究公募

ペン剣基金委員会

「本学園の質の高い教育の維持・発展に資する」ことを目的として創設されたペン剣基金の助成を受け、研究活動を行おうという意欲的な部・同好会、研究グループまたは個人を募集します。

下記要領にて積極的に応募してください。

応募期間 新型コロナウイルスに関する昨今の社会情勢や学園生活の現状に鑑み、今年度は、募集の期間を分けることと致しました。

【1次募集】期間：令和2年5月16日(土)～令和2年6月22日(月)

自宅のできる範囲の研究について、募集致します。

(今回の公募はこちらの1次募集をお知らせするものとなります。)

【2次募集】学園生活の制限や、県をまたぐ移動の制限等が解除された後に、例年通りの形で公募を行う予定です。

その際は、今年度内のできる範囲の研究について、募集致します。

助成対象 本校生徒による個人または研究団体(窓口の専任教職員必須)

助成内容 (1) 研究教育機器備品および同消耗品の購入

(2) 研究活動のための図書および出版物の購入

研究発表 研究結果については、公的な出版物(生徒会出版物も含む)などに報告するものとする。

研究期間、会計処理 研究期間は原則単年度とし、2月末日までに会計報告を行うものとする。

審査および結果の通知 応募者は、採用判定会議において、申請内容に関するプレゼンテーションを行い、審査を受けること。

採用判定会議は、6月27日(土)にオンラインで行う予定。(詳細は応募者に後日連絡)

採用の判定は、ペン剣基金委員会から窓口専任教職員を通して夏休み前に通知する。

備考 ・応募書類の受け取り、提出は窓口の先生を通して行うこと。

・助成内容にうたう「研究」とは、学術研究に特化限定されるものではない。

丁寧な計画立案と研究成果の報告という要件を満たせば、新たな試みも可能である。

以上

ペン剣基金委員会
担当 小林 俊輔

令和2年(2020年)5月16日(土)

ペン剣基金生徒用要項

「本基金は、昭和23年卒業生の安田喜八郎氏により寄贈された資金をもとに、本学園の質の高い教育の維持・発展に資する事を目的として設立されたものです」

1. 研究内容について

本基金設立の趣旨を生かした、本学園の活性化につながる創造性豊かな研究内容であれば、理系、文系、その他分野は問わない。部・同好会、グループ研究、個人研究のいずれも受け付ける。

2. 研究活動期間について

原則として単年度すなわち学年の終了までであるが、本学園在学期間に限り、再度申請することで次年度に継続する事もできる。

3. 研究発表の場について

研究成果は途中経過も含め、公的出版物に掲載する。生徒会発行や学園発行の出版物、文化祭などでの発表も可である。

4. 助成対象機材などについて

機材・図書などは、研究活動に特化したものに限る。汎用の文具やパソコン、部活動などで購入できるもの等は申請できない。取材や発表のための経費(旅費、拝観料、資料購入費等)は請求できる。

5. 機材・図書の帰属について

本基金の助成で購入した機材・図書は原則、学園に帰属する。従って研究が終了した時点でしかるべき学園各部署に返還する。高額な機材・図書(単価5万以上)などは、窓口専任教職員が学校の備品登録を受ける。それまで適切な管理運用が必要である。

6. 窓口専任教職員依頼について

窓口となる専任教職員は、研究にかかわる生徒を掌握し、研究の進展、会計処理等を責任ある立場で見守る。従って、研究の趣旨をよく理解していただき、実行性のある計画を提示して依頼しなければならない。

7. 経費の受け取り、会計および会計報告について

- ・経費は領収書を整え、窓口専任教職員の捺印を受け、事務局担当者に申請する。
- ・前借を必要とする場合は窓口専任教職員に依頼する。
- ・会計の締めは2月末日までに行い、窓口専任教職員の監査を受け、同時に、会計報告書を委員会へ提出する。

*応募用紙その2 使途内訳について

- ・いわゆる予算に当たるものである。高額な機材・図書(単価3万以上)をはじめ、各品目について、事前に判っているものは金額を入れること。
- ・助成される金額は、会計の締めで計上された額(実際にかかった費用)である。

以上